

土塔の弁天・土塔塚

むかし、むかし、平安時代の初めの頃、弘法大師が、二荒山へ向かう時、川辺の里に泊まつたそうだ。その夜、夢に弁天様が現れて、「我は、百々塚権現のあたりの池に住む白蛇である。池のほとりに、弁財天をまつるがよい。」と言つたと。

大師は、あくる日、百々塚の里を訪ねたと。そこにある広い池の水をかき回すと、白蛇がうねうねと動くのが見えたと。昨夜の夢は、正夢だった。
大師は、村人に対するお詫びとして、弁財天をまつらせた。

池には、おびただしい羽虫の群れが、竜巻のように、渦巻き立っていたと。
村人たちは、日々に、「羽虫がわいて作物を荒らすので困ります。助けて下さい。」と大師にお願いしたと。

大師は、村人に、「池を汚すから羽虫もわく。まず池を綺麗にせよ。」と命じたと。
村人がゴミを拾い集め、池の水が澄んだ時、大師が、錫杖を鳴らして祈った。
すると、一団の羽虫が雲のように飛び去った。
村人が後を追うと、羽虫が山のように積み重なって死んでいたそうだ。

それを見て、大師は、「この上に、塚を築け。」と言つたと。村人は、一日かけて、もっこを百杯運んだ。
すると、大師の法力で、一日一夜で大きな塚が出来たと。

もっこ百杯の塚だから、十塚と呼んだと。それが訛って、土塔塚になったそうだ。

おしまい。